

チューバで聞く音楽の4世紀

開催報告

くにたちデビューコンサート vol.14



坂本光太ソロリサイタル

チューバで聞く音楽の4世紀

2021/2/26(土) 14:00(開場 13:30)/17:00(開場 16:30) 2回公演

くにたちデビューコンサートは、

国立市と国立音楽大学との間で**包括連携協定**が締結されたことを踏まえ、(公財)くにたち文化・スポーツ振興財団では、芸術環境創造事業における学校連携事業に位置づけたプログラムを実施しています。国立音楽大学の優れた若手演奏家による音楽活動の継続を、地域の卓越した芸術文化資源として、優れた芸術に触れる観客の裾野を広げていくために、公演運営や舞台技術の知見とプロフェッショナルな音楽家の創造性を共有しながら、ともに舞台を創り上げていく共創的な事業です。くにたち市民芸術小ホールでは、ひとりでも多くの方々に芸術の愉しさに触れていただき、次世代に受け継がれていくような試みを今後も行っていきたいと考えています。

主催：(公財)くにたち文化・文化スポーツ振興財団 協力：国立音楽大学 後援：国立市教育委員会

お問合せ：くにたち市民芸術小ホール 〒186-0011 国立市富士見台 2-48-1 042-574-1515 hall@kuzaidan.or.jp

チューバで聞く音楽の4世紀

概要



前年度より引続きの取り組みとして

- (1)内容の理解を助ける工夫
- (2) 非日常、特別なプログラム

を念頭に置き、構成を検討した。

国立音大で博士号取得した京都在住の坂本氏に依頼することになり、リハーサル等について懸念されたが、昨今の社会情勢の影響もあり、Zoomによる打合せやリハーサル動画のデータ共有などによって問題なく進行、開催に成功。メインビジュアルのデザインを岡千穂氏に外部委託、新曲委嘱を久保田翠氏に委託するなど、新しい試みも実施した。新しい試みとしては他に、開催前に曲目解説を含むインタビューを実施、動画配信、広報誌掲載などの告知に活用した。さらに公式ツイッターにてプレゼントキャンペーンを初実施。多くの応募はなかったものの、当選者は17:00の回に来館。

当選者からは喜びの声が届いている。(以下メール)

#####

この度はステキなコンサートありがとうございました。

現代音楽が好きで、はじめは久保田作品を目当てに応募いたしました。

チューバで辿る四世紀は音楽の変化がダイナミックで全体を通してとても楽しめました。

また機会があれば聴きに行きたいと思います。ありがとうございました。



チューバで聞く音楽の4世紀

プログラム

チューバで聞く音楽の4世紀と題されたコンサート。1800年から2022年に至る4つの作品を通して音楽の在り方の変遷を辿る。まずは18世紀終わりの年である1800年に作曲された、ベートーヴェンの「ホルンソナタ」。ピアノとナチュラルホルンのための作品をピアノとチューバで。演奏後にナチュラルホルンについて、ホルン奏者のプントについて、坂本氏のMC。2曲目はクララ・ヴィークーシューマンの「3つのロマンス」。こちらはヴァイオリンとピアノのための作品。女性作曲家クララの生涯など曲の背景を紹介。美しくも儂さを感じさせる曲をより深く理解するスパイスに。3曲目のジェニファー・グラスの「ソナティナ」はいよいよチューバとピアノのための曲。世界的チューバ奏者のジョン・フレッチャーの話とともに、坂本さんにとっても特別な想い入れのある曲であるという。チューバとピアノの絡み合う4楽章でついに現代へと繋がる。

4曲目は新曲、初演、久保田翠さん作曲の「あるチューバについての物語」ピアニストの杉山さんが曲についての想いなどを語り、坂本さんはいくつかの音の鳴る小さな楽器を足や手元に準備。曲の冒頭は何気ない日常の一場面のような音から始まり、行為の説明であったり、有名なチューバの一節だったり、チューバ奏者のおしゃべりであったり、さらには個人的なバックグラウンドに触れたりしながら進行していく。様々な場面でのチューバの音と言葉を音鳴る小さな楽器と、他楽器のマウスピースを使っただけの構成。記譜や概念に捕らわれない《現代音楽》と呼ばれる作品としては、ある意味ではわかりやすく、意識せずに楽しめる曲の誕生であった。

制作についてと改善点

開演前/終演後の諸注意については、現代音楽を含む公演のためクラシカルな影アナウンスより映像での提示のほうがスマートではある場合があるが、反響板とピアノを設置する場合、当ホールではプロジェクトが使用できないため断念。フレキシブルに対応できる方法がないか要検討事項と判明。チューバとピアノのみとシンプルな構成だったため、練習場所は最低限しか確保しておらず、



お互いの音が聞こえない場所で別々で練習したいという奏者の要望に応えられない場面があった。また当初奏者が予定していたリハーサル時間では足りず、前日リハは2時間ほど超過。またプログラムも完成前の新曲を含む予定だったとはいえ、当初60分のプログラムとお客様にもご案内していたにも関わらず、当日公演は実際75-80分となり、見通しの甘さが目立った。余裕を持ったスケジューリング、制作側としても奏者としても時間を意識したプログラム構成の必要がある。

チケットの売り上げに関してはアンケートから見ても近隣で活動していないことを差し引くと出演者の尽力が伺える。通常他の公演だと財団広報誌オアシスからの集客が一番多い結果になるが、今回に限っては17:00の回は全て広報誌以外からの集客によるものであった。別の媒体を介したユーザーを招致できたことは一定の実績といえる。また、近隣ホールや関係者以外からのフライヤーの挟み込み依頼件数も多く、何らかの形で通常とは違うユーザーへと情報が届いていたことは間違いなさそうである。

チューバで聞く音楽の4世紀

入場者アンケート結果

入場者数：143名 アンケート回収数：90枚

Q1.どちらからお越しですか

国立市	59	八王子市	1	府中市	5	日野市	1
国分寺市	1	武蔵野市	1	東村山市	1	23区	4
立川市	3	あきる野市	1	山梨県	2	都外/その他	14

Q2.本日の公演は何によって知りましたか(複数回答可)

チラシ	38	駅掲示	3	公式サイト	2
オアシス	16	委託店	1	公式TW	3
掲示板	14	出演者	26	Confetti	1

Q3.本日の公演に来られた理由は何ですか(複数回答可)

クラシックに興味	58	開演時間	23	誘われた	18
現代音楽に興味	27	料金	30	近い	39
室内楽に興味	22	出演者が良い	16	その他	13

Q4.本日の公演はいかがでしたか

とても良かった	60	良かった	24	まあまあ	4	あまり良くなかった	0
---------	----	------	----	------	---	-----------	---

自由回答(一例、原文より抜粋)

世紀を走っていく感じが面白かったです。チューバって楽しい楽器なんだなと聴けて良かったです。/21世紀のがすごくおもしろかったです。「個人的なことが普遍につながる」という解釈よかったです。最後の作品に、音楽芸術のありようが古典的な楽譜による演奏ばかりでないことに思い至ることとなりました。/最後の久保田くんの演奏が坂本さんの今までのMCと重なってとても良い伏線の回収のように思えた。チューバ単体で曲を聞くことはほとんどないので、非常に良い刺激となった。また、女性作曲家など、今まで日に当たっていなかった作曲家の音楽を採用し解説してくれたので、より曲の解像度を上げながら聴くことができた。/学校でオーケストラにはいつかその時に音楽を生で聞きたいというふうだったので今日聞けてよかったです。/どの曲もその曲の良さが伝わる演奏でした。特にクララ・ヴィーク・シューマンは解説の後に聴くと彼女の人生や、愛情に満ちた生活、苦悩などが思い浮かびました。チューバでも美しい曲は美しいですし、坂本さんの演奏が美しく響かせているのだと思います。/チューバの演奏会は珍しく聞く機会がないと思った。金管楽器は詳しくないので、解説していただけて、とても興味深く話が聞けて演奏もより楽しめた。“あるチューバについての物語”初演に立ち合えてとても良かった。坂本光太さんにとても合った曲で、演奏 伴奏も含めて すべて最高だったと思います。とても楽しめた演奏会でした。